

町小だより

令和5年
5月31日
No. 675
御免町小学校

しばたの心

校長 相澤 祐助

5月20日(土)には運動会にお出でいただき、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染禍を乗り越え、新しい時代の運動会に向けての第1歩となったことと思います。そして、多くの保護者の皆様、地域の皆様から運動会を参観していただき、大いに盛り上がりました。皆様の温かい声援や熱い視線が子どもたちに届いたおかげで、子どもたちは、最後まで粘り強く、たくましい姿を見せてくれました。また、後片付けを手伝ってくださった大勢の保護者の皆様に感謝申し上げます。

さて、昨年度(今年、令和5年)の2月17日に御免町小学校150周年記念行事を実施した時のことです。今の6年生が実行委員として御免町小の歴史を調べている中、私も御免町小の歴史を紐解きたくなり「新発田町教育史」をじっくりと読んでみました。その中で、私の興味をひいた資料があったので紹介します。

明治14年に校舎新築の話が持ち上がり、建設が始まった。

明治16年1月8日 新発田町御免町に新校舎の落成式が挙行された。来賓に郡長等を招き、式後には北辰館にて盛大なる祝宴会を行った。新発田町民の多年の宿望が達成された喜びが、いかに大きかったかを物語っている。

建築総経費が7000圓であった。(※当時の1圓が今の約20,000円の価値と考えると、約1億4000万円に相当すると考えられます〈相澤〉)

明治17年5月18日に開校式を挙行した。県知事等も来賓として来校し、参加者は総勢300人と実に盛大なものであった。児童数は、男子490人、女子258人。

明治18年 新潟県北蒲原郡第29小学区公立新発田小学校と改名し、明治20年には尋常科新発田町小学校となり、明治25年4月には、新発田町尋常小学校と改名した。

しかし、明治28年6月2日、新発田町大火災が発生し、小学校が類焼した。明治28年7月に、長徳寺、真称寺、相圓寺の3寺院を仮教室にして授業を再開した。

明治29年8月、現地に小学校の工事を始め、明治30年5月に新校舎を落成した。(※今の市役所に隣接する、きやり館の付近になります〈相澤〉)

御免町小学校は常に、地元の御免町の市民から愛されていたことがよく分かります。大火災に遭遇し、大きなショックを受けたにもかかわらず、地域の学び舎を急ピッチで復興する姿からもそれが如実にうかがえます。“しばたの心”がそこにあるのです。

“御免町小は私たちの学校である”この心意気が強く感じるのは、校外学習で地域を巡った時やゲストティーチャーをお迎えした時です。早く子どもたちに接してあげます。御免町小では、「しばた心の継承プロジェクト」を通して、新発田市の伝統や文化、人材の魅力にふれる学習を進め、「しばたの心」を未来につないでいきます。